

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
102-70	高等学校	国語科	言語文化	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教科書名		
183第一	言文716	高等学校 新編言語文化		

1. 編修の基本方針

1. 古典や近現代のすぐれた文章に触れることにより、言語感覚を磨き、知識と教養を身に付け、豊かな感性や情緒を育むことができるようにした。
2. 生徒が自主的・主体的に学習活動を行うことにより、思考力・判断力・表現力を養い、自発的・創造的な人間形成に進むことができるよう考慮した。
3. 対話的・協働的な学習活動を積み重ねることにより、さまざまな社会的要請に応え得る人間性の育成に役立てられるようにした。
4. 人間・生命・自然などに目を向けさせ、それらが我が国の伝統と文化の中でどのように表現されてきたかを知ることができるように配慮した。
5. 歴史的・文化的背景を踏まえて国語文化を捉え、生徒一人一人がその伝統の担い手であることを自覚させることを期した。

2. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
日本文学編 —近現代	<ul style="list-style-type: none"> ・真理を探究する人間のさまざまなありようを示すことにより、生徒の人間性・社会性の涵養に働きかけられる題材を採録した(第1号)。 ・韻文作品の鑑賞を通して、豊かな情操を養うことができるよう配慮した(第1号)。 ・読書の幅を広げることができるよう、「読書のしるべ」を設定し、採録作家とその著書を紹介した(第1号)。 	p. 10～23 p. 24～36 p. 38～39 p. 42～43 p. 48～60 p. 61～72 p. 84～94 p. 95～104 p. 105～116 p. 61～72 p. 38～46 p. 74～81 巻頭口絵
	<ul style="list-style-type: none"> ・自主・自律、労働といった、現実社会の諸問題を含む題材を採録し、生徒が自らの問題として考えを深めることができるよう配慮した(第2号)。 ・「言語活動」を通して、主体性を発揮して創造的な課題に取り組めるようにした(第2号)。 	p. 10～23 p. 48～60 p. 82 p. 124
	<ul style="list-style-type: none"> ・他者との関係やそれを支える心情や精神といった、社会性を含んだ題材を採録し、生徒が自らの問題として考えを深めることができるよう配慮した(第3号)。 	p. 24～36 p. 61～72 p. 84～94 p. 105～116
	<ul style="list-style-type: none"> ・生命、紛争といった、現実の諸問題に深く関わる題材を採録し、生命を尊ぶ態度を養うとともに、生徒が自らの問題として考えを深めることができるよう配慮した(第4号)。 	p. 44～46 p. 48～60 p. 84～94 p. 105～116
	<ul style="list-style-type: none"> ・「伝統と文化」の単元を設定し、我が国の伝統と文化に理解を深める教材を用意した(第5号)。 	p. 118～p. 124
	日本文学編 —古文	<ul style="list-style-type: none"> ・真理を探究する人間のさまざまなありようを示すことにより、生徒の人間性・社会性の涵養に働きかけられる題材を採録した(第1号)。

	<ul style="list-style-type: none"> ・「古文を読むために」を適宜設定して、文語のきまりについて知識を補えるようにした（第1号）。 	p. 130～131 p. 134～135 p. 140～141 p. 152～153
	<ul style="list-style-type: none"> ・「言語活動」を通して、主体性を発揮して課題に取り組めるようにした（第2号）。 	p. 144～146 p. 172～175
	<ul style="list-style-type: none"> ・古典における理念や社会秩序についての基本的な考え方に深く関わる題材を採録し、現代の社会や人間関係にも共通する問題として、生徒が考えを深められるようにした（第3号）。 	p. 128～129 p. 132～133 p. 138～139 p. 142～143 p. 148～151 p. 156～169
	<ul style="list-style-type: none"> ・生命や自然に深く関わる題材を採録し、表現を吟味する活動を通して、生命・自然を尊重する態度を養えるよう配慮した（第4号）。 	p. 158～164 p. 168～171
	<ul style="list-style-type: none"> ・冒頭の「古文の学習」以下、コラム「古典のしるべ」「歴史の窓」等を適宜設定して、我が国の言語文化について、外国との関係や歴史的背景を踏まえて理解できるようにした（第5号）。 	p. 126～127 p. 136 p. 144～146 p. 154 p. 165 p. 166 p. 180
漢文学編	<ul style="list-style-type: none"> ・真理を探究する人間のさまざまなありようを示すことによって、生徒の人間性・社会性の涵養に働きかけられる題材を採録した（第1号）。 ・「漢文を読むために」「漢詩のきまり」を適宜設定して、漢文訓読のきまり等について知識を補えるようにした（第1号）。 	p. 192～197 p. 212～214 p. 185 p. 187 p. 189 p. 210
	<ul style="list-style-type: none"> ・「言語活動」を通して、主体性を発揮して課題に取り組めるようにした（第2号）。 	p. 198～199
	<ul style="list-style-type: none"> ・古典における理念や社会秩序についての基本的な考え方に深く関わる題材を採録し、現代の社会や人間関係にも共通する問題として、生徒が考えを深められるようにした（第3号）。 	p. 204～207 p. 208～209 p. 212～214
	<ul style="list-style-type: none"> ・自然鑑賞に深く関わる題材を採録し、表現を吟味する活動を通して、生命・自然を尊重する態度を養えるよう配慮した（第4号）。 	p. 202～203
	<ul style="list-style-type: none"> ・冒頭の「漢文の学習」以下、漢文学が我が国の言語文化に与えた影響について理解できるようにした（第5号）。 ・コラム「歴史の窓」を設定して、中国の歴史的背景を踏まえて作品等を理解できるようにした（第5号）。 	p. 182～183 p. 184 p. 186 p. 188 p. 192～199 p. 208～209 p. 200

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

- ・第二条第3号及び、学校教育法第51条1号「国家及び社会の形成者として必要な資質を養うこと」、また、第3号「社会について、広く深い理解と健全な批判力を養い、社会の発展に寄与する態度を養うこと」を踏まえ、各編の各教材の最後に「学習の手引き」「活動の手引き」「言葉の手引き」といった課題を用意し、発表や話し合いを含む多様な学習活動を設定した。教材の内容や構成などについて理解を深め、自らの考えを的確に表現する資質・能力を養うとともに、生徒相互の意見交流を通じて、多角的で客観性のある批判的思考能力を養えるよう配慮した。
- ・書体にユニバーサルデザインフォントを取り入れたほか、カラーユニバーサルデザインにも配慮し、すべての生徒にとって学びやすい紙面となるよう配慮した。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
102-70	高等学校	国語科	言語文化	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教科書名		
183第一	言文716	高等学校 新編言語文化		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

①単元構成・教材選定

- ・国語の資質・能力を育成し、我が国の言語文化に対する理解を深めるため、全体を「日本文学編－近現代」「日本文学編－古文」と「漢文学編」の三編で構成し、各編は文種（ジャンル）を基本にした単元構成として、系統的に学習ができるように教材を配置した。
- ・「日本文学編－近現代」は、小説と自伝、詩歌、および、我が国の伝統や文化を題材にした作品を取り上げた。
- ・教材の選定にあたっては、生徒の発達段階や中学校の国語科との接続にも配慮して、高校生として知っておくべき評価の定まった作品から厳選することを旨とした。
- ・単元の扉に、学習によって身につけるべき国語の技能を「学習目標」として示し、学習指導要領が目ざす[知識及び技能]と[思考力、判断力、表現力等]を、見通しを持って学ぶことができるようにした。
- ・作品の冒頭に、それぞれの教材で何を学ぶかを「学習のねらい」として示し、教材の意図を学習者全体で共有しながら学びに取り組むことができるようにした。
→「生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図る」ための配慮。

②[知識及び技能]への対応

- ・現代文と古文では「言葉の手引き」を設定し、「B 読むこと」の内容と関連づけながら、漢字・語句・表現・文法等の知識を深めるとともに、文脈の中で語感を磨き、語彙を豊かにできるようにした。
- ・古文では「古文を読むために」、漢文では「漢文を読むために」を設定して、「B 読むこと」の内容と関連づけながら、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりを系統的に学習できるようにした。また、「古典のしるべ」「歴史の窓」というコラムを設け、我が国の言語文化の特質や外国の文化との関係、作品の歴史的・文化的背景などについて、理解を深めることができるようにした。
- ・巻末に「資料編」と「口絵」を用意し、豊富な資料や写真・図版を掲載して、知識をより深めるための一助とした。
- ・作品ごとに作品解説と作者解説を付し、出典の情報を示して読書につながる興味づけを図った。また、小説に関しては巻頭口絵に「文学のしるべ」を設け、読書の幅を広げることができるように意図した。

③[思考力、判断力、表現力等]への対応

- ・「A 書くこと」に関しては、「言語活動」を主体として教材を設定し、具体的な活動を通して表現力や想像力を高め、自分の考えを広げて伝え合う能力を育成することを目ざした。
→p.82「折句を用いて短歌を作る」、p.124「『祭り』をテーマに随筆を書く」
p.172「古典の和歌を現代の言葉で書き換える」
- ・「B 読むこと」に関しては、脚注の「問」、および「学習の手引き」「活動の手引き」の三つの課題設定によって、作品の内容理解を深め、興味を広げることができるようにした。
 - *「問」は、本文を解釈するうえでポイントとなる箇所に、内容理解を確認する目的で示した。ここにはB5判という大判の特性を生かし、考えたことをすぐに記入できるように解答枠を設けた。
 - *「学習の手引き」は、文章全体の構成や展開の把握と、「学習のねらい」に沿った内容の解釈との、基本的に二つの事柄を行うことを主旨として設定した。
 - *「活動の手引き」は、本文を学習して得た知識や、本文に関連する事柄などをもととして、文章を書いたり、調査・報告を行ったりするなど、「読むこと」と「書くこと」の両方に関わる言語活動を行うことを主旨として設定した。
- ・「活動の手引き」とは別に、「B 読むこと」の「言語活動」として、次の教材を用意した。
→p.144「古典から受け継がれる話の由来を調べる」、p.198「故事成語の由来と意味を調べる」
- ・我が国の伝統行事や風物詩に関する題材や、我が国の伝統芸能に関する題材は、「伝統と文化」という単元にまとめて、他の教材とは区別できるように扱った。

2. 対照表

図書構成・内容			学習指導要領の内容						該当箇所	配当時数		
			知識及び技能		思考力・表現力・判断力等					書くこと	読むこと	計
章	単元	教材	(1)	(2)	書くこと(1)	書くこと(2)	読むこと(1)	読むこと(2)				
日本文学編 — 近現代	小説を読む(一)	・島の少年—船(内海隆一郎)	イ・ウ				ア・イ・ウ	イ	p.10—p.23		2	2
		・よろこびの歌(宮下奈都)	イ・ウ				ア・イ	イ	p.24—p.36		2	2
	詩の楽しみ	・道程(高村光太郎)	オ				イ・ウ	イ	p.38—p.39		1	1
		・小景異情(室生犀星)	オ				イ・ウ	イ	p.40—p.41		1	1
		・六月(茨木のり子)	オ				イ・ウ	イ	p.42—p.43		1	1
		・I was born(吉野弘)	オ				イ・ウ	イ	p.44—p.46		1	1
	小説を読む(二)	・羅生門(芥川龍之介)	イ・ウ	カ			ア・イ・エ	イ・ウ	p.48—p.60		2	2
		・ほねとたね(川上弘美)	イ・ウ				ア・イ・ウ	イ	p.61—p.72		2	2
	短歌と俳句	・大切の言葉	オ				ア・イ	イ	p.74—p.77		1	1
		・手毬唄	オ				ア・イ	イ	p.78—p.81		1	1
		[言語活動]折句を用いて短歌を作る	オ	ア・ウ	ア・イ	ア			p.82	1		
	小説を読む(三)	・よだかの星(宮沢賢治)	イ・ウ・エ				ア・イ・オ	イ	p.84—p.94		2	2
・鏡(村上春樹)		イ・ウ				ア・イ・ウ	イ	p.95—p.104		2	2	
・わたしはマララ(マララ・ユスフザイ)		イ・ウ・エ				ア・イ・オ		p.105—p.116		2	2	
伝統と文化	・人形浄瑠璃文楽—三業一体の技	ア・イ	ア・イ	ア・イ	ア	ア・オ	ア・オ	p.118—p.121	1	1	2	
	・祭りの笛(三浦哲郎)		ア			ア・ウ	ア	p.122—p.123		1	1	
	[言語活動]「祭り」をテーマに随筆を書く	イ	ア	ア・イ	ア			p.124	2		2	
日本文学編 — 古文	古文入門	・古文の学習	ア	ア			オ		p.126—p.127		1	1
		・鳩と蟻のこと	ウ	ウ			ア・イ	イ	p.128—p.129		1	1
		・古文を読むために1		ウ					p.130—p.131			
		・三文にて鹵二つ	ウ	ウ			ア・イ	イ	p.132—p.133		1	1
		・古文を読むために2		ウ					p.134—p.135			
		[古典のしるべ]平仮名の誕生		エ			エ		p.136			
	古文に親しむ	・児のそら寝	ウ	ウ・エ			ア・イ	イ	p.138—p.139		2	2
		・古文を読むために3		ウ					p.140—p.141			
		・なよ竹のかぐや姫	ウ	ウ			ア・イ	イ	p.142—p.143		2	2
		[言語活動]古典から受け継がれる話の由来を調べる	ア・イ	カ			エ	ア・オ	p.144—p.146		1	1
	物語を楽しむ	・伊勢物語	ウ	ウ			ア・イ	イ・ウ	p.148—p.151		2	2
		・古文を読むために4		ウ					p.152—p.153			
		[歴史の窓]		ア・イ			エ		p.154			
	随筆を読む	・徒然草	ウ	ウ			ア・イ・ウ	イ	p.156—p.157		2	2
		・方丈記	ウ・エ	ウ			ア・イ	イ	p.158—p.159		2	2
		・枕草子	ウ	ウ・エ			ア・イ	イ	p.160—p.164		6	6
		[歴史の窓]		ア・イ			エ		p.166			
		[古典のしるべ]和漢混交文	ア	ア・イ・オ			エ		p.165			
和歌と俳諧	・万葉・古今・新古今	ウ・オ	ア・ウ			ア・イ	イ	p.168—p.171		2	2	
	[言語活動]古典の和歌を現代の言葉で書き換える(俵万智)	ア	ア	ア・イ	ア	エ	エ	p.172—p.175	1	1	2	
	・奥の細道	ウ・オ	イ・ウ			ア・イ・エ	イ・ウ	p.176—p.179		2	2	
	[古典のしるべ]『奥の細道』と和漢の文学	ア	ア・イ			エ		p.180				
漢文学編	漢文入門	・漢文の学習	ア	ア			オ		p.182—p.183		1	1
		・訓読に親しむ(一)	ウ	ウ			イ		p.184		1	1
		・漢文を読むために1		ウ					p.185			
		・訓読に親しむ(二)	ウ	ウ			イ		p.186		1	1
		・漢文を読むために2		ウ					p.187			
		・訓読に親しむ(三)	ウ	ウ			イ		p.188		1	1
	故事成語	・漢文を読むために3		ウ					p.189			
		・五十歩百歩	ウ	ア・ウ・エ			ア・イ	イ	p.192—p.193		1	1
		・矛盾	ウ	ア・ウ・エ			ア・イ	イ	p.194—p.195		1	1
		・狐借虎威	ウ	ア・ウ・エ			ア・イ	イ	p.196—p.197		1	1
		[言語活動]故事成語の由来と意味を調べる	ウ	ア・エ			エ	ア	p.198—p.199			
		[歴史の窓]		ア・イ			エ		p.200			
	漢詩の鑑賞	・唐詩の世界	オ	ア・ウ			イ・ウ	イ	p.202—p.207		5	5
		・日本の漢詩	オ	ア・ウ			イ・ウ	イ	p.208—p.209		1	1
・漢詩のきまり			ウ					p.210				
寓話・小話	・両頭蛇	ウ	イ・ウ			ア・イ・エ	イ	p.212—p.213		1	1	
	・鼻逢鳩	ウ	ウ			ア・イ	イ	p.214		1	1	
資料編	・文語文法要覧		ウ					p.216—p.219				
	・古典文学史年表		ア・イ					p.220—p.221				
	・慣用表現一覧		ア・イ					p.222—p.225				
	・いろはかるた一覧	ウ						p.226—p.227				
	・ことわざ・故事成語一覧	ウ						p.228—p.229				
	・常用漢字表・付表	イ						p.230—p.240				
計									5	65	70	